

サンショウウオ展を振り返って

実現までに実に5年という歳月を費やした今回の企画展。その甲斐あってご覧になった方からはたくさんの反響をいただきました。展示水槽のサンショウウオたちを目を輝かせながらご覧になるお客様の様子を見るとサンショウウオ自体がとても魅力的な生き物であることは勿論、九種類ものサンショウウオの仲間を育む九州の自然環境の素晴らしさを改めて認識しました。印象的だったのは「オオサンショウウオ以外のサンショウウオの存在を初めて知った!」というご意見がとても多く寄せられたことです。サンショウウオの仲間のほとんどが小さく目立たない生き物でしかも絶滅危惧種に指定されていますが、意外にも私たちの身近な場所に棲んでいることもあります。まずはその存在を広く知っていただくことが彼らを絶滅から救う第一歩ではないでしょうか。彼らを探し求めた旅は苦難の連続でしたが、少しでも地域の自然に関心を向ける足掛かりになれて本当にやって良かったと実感しています。たった一ヶ月ちょっとの期間ではまだまだお伝えしきれなかったことがたくさんあった「未完成な」企画展ではありましたが、それは言い換えるとサンショウウオの奥深さを物語っているのだと思います。最後にこの企画展のために貴重な資料、画像を提供していただいた九州両生爬虫類研究会の坂本真理子さん、京都水族館の関慎太郎さん、埼玉県立川の博物館の藤田宏之さん、旅の行く先で出会った地元の方たち、並びに私のサンショウウオを追い求めるロマンに付きあってくれた北九州・山椒魚部の部員みなさんに厚くお礼申し上げます。

生体展示みどころ



せっかく苦労して集めた貴重なサンショウウオの姿をじっくりご覧になれるように展示を工夫しました

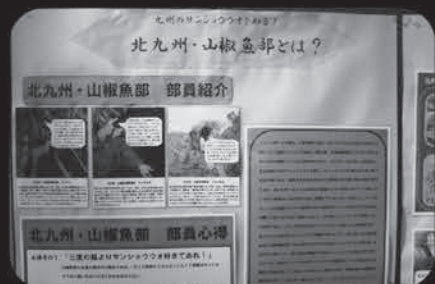


成体よりも更に愛らしいサンショウウオの幼生の姿に「可愛い!」の声が続出!!

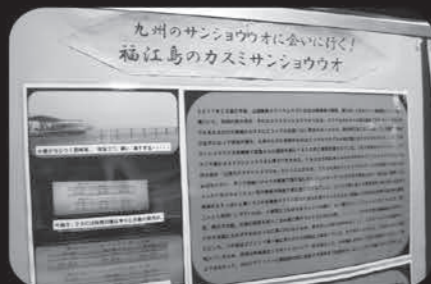


期間中スタッフが偶然見つけたプチサンショウウオの卵も追加展示。卵の中で進む神秘的な発生の様子をご観いただきました。

パネル展示みどころ



サンショウウオ探しのコツやジグス、感動の出会い等々地道に真面目にユーモアを交えてお届けする山椒魚部の活動の様子を紹介



九州各地での山椒魚部の活動の様子を記録したサンショウウオ探訪記は必読!



今回は残念ながら生体展示が叶わなかったサンショウウオたち。パネルだけですがその貴重な姿を紹介しました。

楽しい海にひそむキケン生物!

山に行けばハチや毒ヘビなどの危険生物がありますが、実は身近な海にもたくさんの危険生物がいます。夏休みで海に行く前に、海にどんな危険生物がいるのかを知っておこう!



毒トゲはこの背ビレにあるぞ

素手で触るのはやめよう

オニオコゼ

危険度☆☆☆

浅い海の砂や泥に身を隠して生息するオコゼのなかま。全長30cmほどで、背ビレのトゲに毒がありズキズキ痛む。数か所刺された場合は病院へ。高級魚。水環境館にも展示している事がよくある。



実はタコの口は足の根元にあるぞ

危険度☆☆☆☆☆

触ると怒って噛みつくぞ

ヒョウモンダコ

写真提供:北九州市産業経済局農林水産部水産課

浅い海の岩礁や潮だまり、岩の下等に生息。体長は10cmほどで、フグと同じ猛毒のテトロドトキシンをもっている。噛まれると非常に危険で死者も出るほど。食べても危険!

危険度☆☆☆☆☆

トゲはとがったノコギリのようになっていぞ

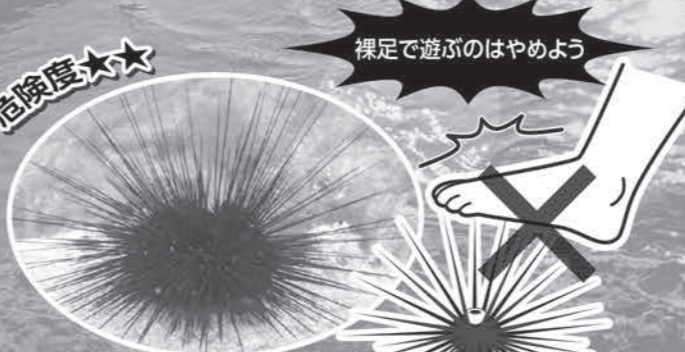


アカエイ

河口や汽水域、干潟でよく見られ、全長で1m。尻尾のトゲはとても鋭く、長靴を簡単に貫通し、踏みつけて刺される事が多い。毒は強く、死ぬ事もあり、助かっても痕が大きく残る。実は食べると美味。

危険度☆☆

裸足で遊ぶのはやめよう



ガンガゼ

岩礁帯の隙間に生息するウニのなかま。毒のあるトゲが細く長いため、刺さると折れ、人体にトゲが残り、しかも抜けにくい。毒は強くないが、処置をしないとずっと痛い。目で光を感知して、トゲを振り動かす。

危険度☆☆

毒トゲは背ビレと胸ビレにあるぞ



ゴンズイ

夜釣りによく釣れるが素手で触らないように

浅い海の岩礁や堤防に生息するナマズのなかま。全長20cmほどで、背ビレと胸ビレのトゲに毒があり、知らずに握って刺される。ズキズキ痛む程度であるが、握らないようにしよう。紫川の観察窓にも時々姿を現す。